

シニア会会長の山中でございます。

本日はご多用中のところ、釣魚会創立のため尽力をされた芳賀先輩、初代釣魚会幹事長を務められた清水先輩を始め、3人の現役諸君に至るまで、たくさんの皆様にご出席をたまわりました。まことにありがとうございます。

ご案内のとおり、本日のメインサブジェクトは、釣魚会 OB 会の設立でございます。その設立を前提とした場合、11年間の長きにわたって発展してきた、KFCシニア会をどうするか、というのが、総会前段のテーマでございます。そして、総会の後段に、矢ヶ崎 OB 会設立準備委員長から、OB 会設立についてのご提案をしていただく予定となっております。

さて、なぜ今 OB 会なのか？ということでございます。そもそも、OB 会設立の動きは過去にも再々ございましたが、継続的な確固たる組織としての OB 会はついに生まれなかったのであります。その間、卒業生の住所録等も散逸し失われてしまいました。そういった状況の中で、11年前に50歳以上の会員による親睦会組織として KFC シニア会が誕生したわけです。

シニア会は順調に発展を続けてまいりましたが、その様子を知った50歳未満の OB から、自分たちにも活動参加の道を拓いてほしいという要望があり、準会員として参加をいただくようになったのが、今から3年前ということになります。その間、全 OB への連絡体制も次第に整備され、現在では8割以上の OB の連絡先が判明し、30名近くの若い会員がシニア会に参加しておられる状況となっております。

しかしながら、これは伝統ある慶応義塾のクラブの OB 会活動としてはまことに異例な形でありまして、仮に将来、複数の OB 会組織が並立するような事態になりますと、複雑な問題を抱えるだけでなく、長期的には全体としての OB 会活動の低迷化を招くであろうことは疑問の余地がありません。

来月には新生釣魚会からの第一回目の卒業生が誕生いたしますので、この時期を逃さず、他の多くのクラブがそうであるように、すっきりとした一本の OB 会を発足させることが、望ましいと私どもは判断をしたわけでありまして、本日 OB 会の設立が承認され、来る4月1日に発足することになりました場合、その前日3月31日をもって、KFC シニア会を発展的に解消させるということをご提案致します。これが提案の第一点。もう一点ございます。それは残余資産の処分についてであります。

お手元にシニア会最終決算案をお配り致しました。この決算案そのものはシニア会規約に則り、当会監査役の監査を経て、既に2月4日開催の幹事会で承認をいただいております。ご覧のように、一般会計では前期繰越を含め、今期収入は、604千円。支出は544千円で、期末繰越は60千円となりました。裏面に、特別会計の出入りがございます。釣魚会再興基金残額は248千円。50周年記念基金が214千円、これらを合わせた解散時の残余資産は523千円となります。これを全額、新しいOB会へ寄付するというのが、ご提案の第2点でございます。ただ釣魚会再興基金については、その目的に沿うよう、別途分別管理してご活用いただくよう新執行部にはお願いをいたしたいと思っております。

この2点につき、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

(承認の拍手を受けて)まことにありがとうございました。

この3年間、我々シニア会執行部は全力で会の運営に当たり、住所録の整備、会費収入増加、企画行事の充実、会報・HP等広報活動の充実強化に努めてまいりました。

更には、廃部となった現役釣魚会の復活を側面からサポートをし、50周年記念行事を開催するなど、一定の成果を収めることが出来たのは嬉しい限りでございます。これも偏に皆様のご理解とご協力の賜物でございます。この場をかりまして、厚く御礼申し上げます。まことにありがとうございました。

さて、これから後は、矢ヶ崎準備委員長にバトンをお渡しすることになります。矢ヶ崎準備委員長は大手金融機関の役員を務めておられたごく多忙な日々のなかでも、また関連会社会長として転籍をされた現在でも、シニア会運営には、常に最大限の時間を割いて協力して下さいました。その組織運営のご経験を生かされ、新OB会のリーダーとして立派にその職責を果たして頂けるものと確信を致しております。OB会の新執行部に対しましても、私どもに対すると同様、皆様の心からなるご支援をいただきますようお願いを申しあげまして、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。